

平成24年度 第23回関東高等学校バスケットボール新人大会

平成25年2月9日(土)

【男子】1回戦 小瀬スポーツ公園体育館 Bコート 第2試合

船橋市立船橋 (千葉県)	92	$\left\{ \begin{array}{l} 32 - 16 \\ 23 - 12 \\ 22 - 7 \\ 15 - 13 \end{array} \right\}$	48	県立宇都宮工業 (栃木県)

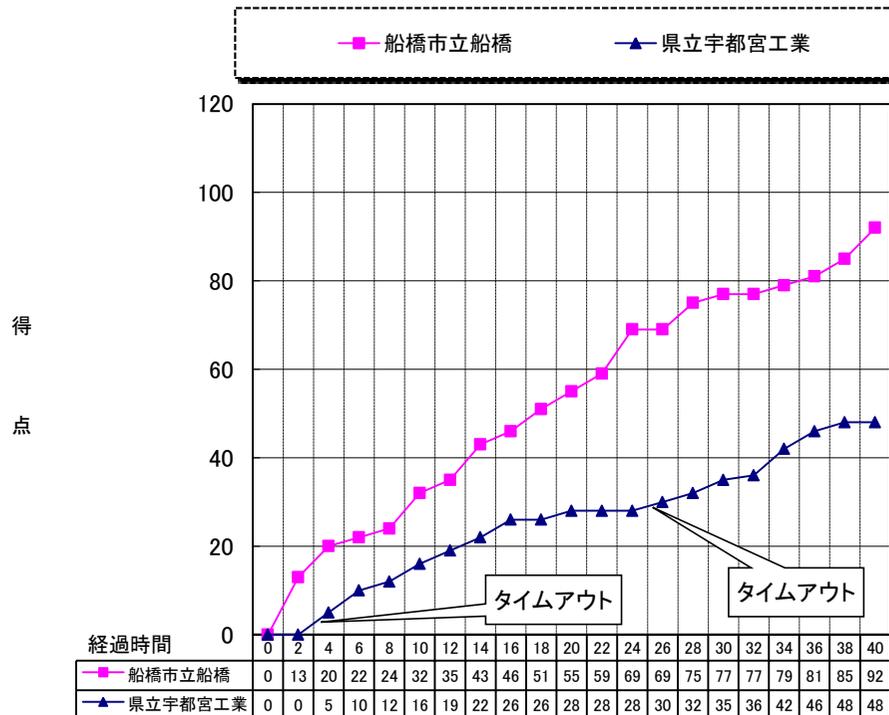
船橋市立船橋

番号	氏名	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシスト	スティール	ブロック	ターンオーバー
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	計				
4	阿部 諒	10	2	3	1	3	2	2	0	0	1	1	4	2	1	2
5	川島 翔吾	2	0	0	1	3	0	0	2	2	4	6	0	0	1	4
6	佐々木弘太	4	0	0	2	2	0	0	1	0	3	3	1	2	0	3
7*	山本 健太	13	0	0	6	8	1	2	3	8	6	14	0	2	2	0
8*	高澤 淳	12	2	6	3	8	0	0	1	1	5	6	1	1	0	0
9*	山崎 豊	2	0	0	1	2	0	0	1	1	1	2	4	1	1	1
10	柘植 晴登	5	1	2	1	3	0	0	0	1	1	2	2	0	1	0
11	八重澤洋平	2	0	1	1	7	0	0	2	1	3	4	4	3	0	0
12	榎 雄大	7	1	5	2	4	0	0	1	0	6	6	3	2	0	1
13*	藤本 利樹	8	2	4	1	6	0	0	1	0	2	2	0	0	0	1
14	山谷 雄大	4	0	1	2	4	0	0	0	1	1	2	0	1	0	1
15	戸田 真太	7	0	0	3	11	1	4	0	5	4	9	3	2	0	2
16*	青木 太一	8	0	0	4	6	0	0	1	2	6	8	2	0	2	1
17	杉田 涼	4	0	0	2	5	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2
18	川上 海斗	4	0	3	2	4	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1
HC	近藤 義行/TEAM									5	3	8				2
チーム		92	8	25	32	76	4	8	15	27	47	74	24	17	9	21
*スターティングメンバー	確率		32.0%		42.1%		50.0%									

県立宇都宮工業

番号	氏名	得点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシスト	スティール	ブロック	ターンオーバー
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	計				
4*	福田 耕平	7	2	6	0	9	1	4	1	1	5	6	1	3	0	3
5	安藤 貴亮	0	0	1	0	3	0	2	0	0	1	1	0	0	0	5
6*	関口 和明	7	1	6	2	10	0	2	1	1	1	2	1	0	0	4
7*	小坂 真治	10	0	0	3	16	4	6	3	5	10	15	5	1	3	0
8*	金田 優弥	18	2	18	6	11	0	0	3	1	4	5	1	4	0	3
9	岡田 暢輝															
10	市川 翔太															
11	河上 成将															
12	中野 瑛葵															
13	片山 陽基															
14	小玉 真吾															
15	福田 哲大															
16	大出 達也															
17*	狐塚 大介	6	0	0	2	7	2	2	2	5	2	7	3	1	1	3
18	石内 佳樹															
HC	千村 隆/TEAM									5	5					
チーム		48	5	31	13	56	7	16	10	13	28	41	11	9	4	18
*スターティングメンバー	確率		16.1%		23.2%		43.8%									

2分毎による得点の推移



戦評

1Q、市船橋はマンツーマン、宇工高はゾーンプレスゾーン。市船橋が先行する形でゲームが進む。ファウルが多い市船橋に対し、④を厚く守られている宇工高はドライブインやフリースローで点を重ねる。市船橋は外のシュートがなかなか決まらないが、その分リバウンドやゴール下のシュートで確実に点を重ね、35-19で1Q終了。

2Q、ガードに対して更にプレッシャーを強めてくる市船橋に対し、④を抑えられている宇工高はなかなかオフェンスのリズムが掴めないが、⑧の3pシュートでなんとか食らいつく。市船橋は⑦を中心に落ち着いてゾーンを攻め、リバウンドで優位に立つ。55-28で前半終了。

後半、宇工高はトランジションの中からレイアップのチャンスを作るが、市船橋の高さの前に得点まで結びつかない。残り5分、フレッシュなメンバーに入れ替えた市船橋は速攻で点を重ねる。ディフェンスからリズムを作りたい宇工高も粘り強くプレッシャーを続けるが、相手のミスを誘うまでには至らない。

スペースに対して1対1を仕掛けたい宇工高だが、ボールが止まってディフェンスを広げることができず単調な攻めになってしまう。攻撃の糸口を見いだせないまま92-48で試合終了。

最終リバウンドを制し、メンバー全員で攻め続けた市船橋が優勝候補の力を見せた試合だった。

主審	田之口晃士	第1副審	大木裕一	第2副審	—
----	-------	------	------	------	---

記入者	小澤和真
-----	------